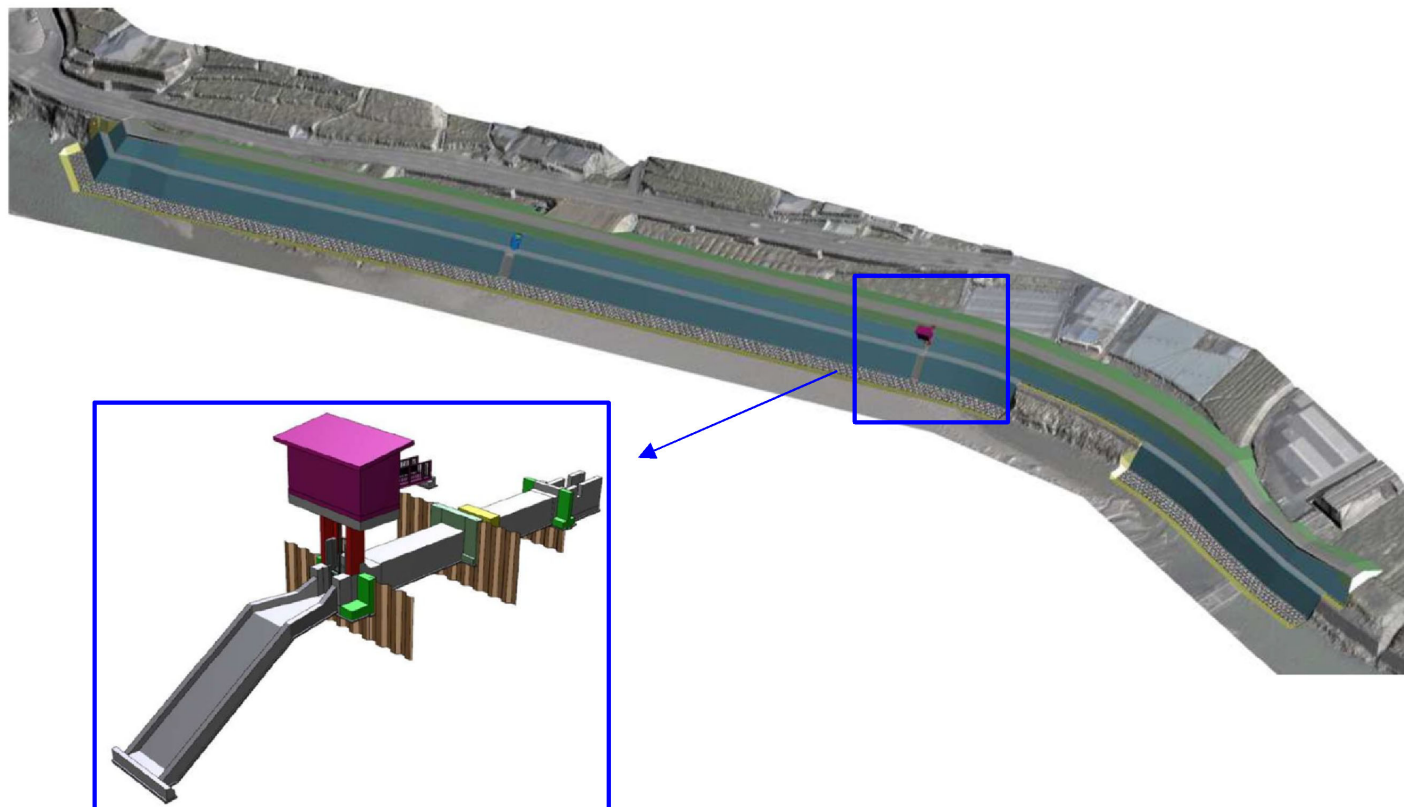


＜築堤・護岸の例＞

- 活用内容: BIM/CIMモデルを活用して構造物の位置、断面形状、構造形式及び条件と基礎形式の整合が適切に取られているかの確認を行う。埋設物、支障物件、周辺施設との近接等、施工条件が設計計画に反映されているかの確認を行う。
- 活用方法: 設計図(一般図)に該当する情報をBIM/CIMモデル化し、一般図作成段階における設計確認を行う。

< 築堤・護岸の例 >

- 活用事例: 平成28年度若穂綿内地区堤防設計等業務
- 地形モデル、線形モデル、築堤／樋門 構造物モデルから統合モデルを作成した。
- 2次元図面上では把握が困難な、既設構造物との干渉等の不具合がないことを確認することができた。



<トンネルの例>

- 活用内容: BIM/CIMモデルを活用して位置、取り合い(道路現況構造物)及び地盤条件とその構造物の整合が適切にとれているかの確認を行う。埋設物、支障物件、周辺施設との近接等、施工条件が設計計画に反映されているかの確認を行う。
- 活用方法: 「設計図(一般図)」に該当する情報をBIM/CIMモデル化し、一般図作成段階における設計確認を行う。

<トンネルの例>

- 活用事例: 清滝生駒道路鹿畑地区橋梁予備設計
- 地形モデル、線形モデル、土工形状モデル、構造物モデルから統合モデルを作成。航空写真を地形モデルに張り付けることで周辺の土地利用状況の把握も可能となり、設計計画の妥当性を効果的に確認することができた。

